

# 復興祈念公園と観光に関する懇談会の開催結果

---

(第3回 高田松原津波復興祈念公園有識者委員会 資料)

平成28年9月29日

# 1. 復興祈念公園と観光に関する懇談会の概要

## ○開催趣旨

- 復興祈念公園、及び公園内に整備される国営追悼・祈念施設(仮称)は、東日本大震災における犠牲者の追悼、教訓の伝承、復興の象徴を主目的とするものであるが、一方で、震災観光の核として地域の活性化にも大きな役割を果たすことが期待されている。
- 2019年のラグビーワールドカップ及び2020年の東京五輪に合わせた企画展開をも視野に入れ、実施設計にあわせ、観光面から復興祈念公園に期待される役割、機能等について議論するため、関係者からなる懇談会を開催する。

## ○メンバー名簿

(敬称略)

氏名	所属・役職等
興津 泰則	一般社団法人日本旅行業協会 国内・訪日旅行推進部長
紺野 純一	東北観光振興機構 専務理事 推進本部長
原田 劉 静織	株式会社ランドリーム 代表取締役
藤間 千鶴	公益財団法人みらいサポート石巻 理事
涌井 史郎	東京都市大学 教授
川瀧 弘之	国土交通省 東北地方整備局長
脇坂 隆一	国土交通省 東北地方整備局 東北国営公園事務所長

## ○事務局

国土交通省東北地方整備局

## 2. 復興祈念公園と観光に関する懇談会における主なご意見

日時：平成28年7月27日(水) 10:00～12:00

会場：TKP仙台カンファレンスセンター カンファレンスルーム4A



ー全国、東北地方における観光業の現状ー

- ・現在、東北地方の観光客数、修学旅行客数は減少傾向。また今後、人口減少・過疎化が進む見込み。
- ・観光客数は、桜や祭りの時期等特に集中し季節変動が大きい。
- ・2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピックに向け、国内全体でインバウンド受け入れ体制の構築が必要。
- ・東北地方は観光要素間の連携や情報発信、宿泊施設が不足しており、インバウンド対応として、コンテンツの拡充、観光要素間の連携、宿泊施設の拡充などが求められる。
- ・近年、観光で重視されている観点は、体験や学び、地域の人々との触れ合い。特に修学旅行では体験が重視される傾向にあり、コンテンツづくりにおいて、配慮が必要。

＜インバウンド対応＞

- ・東北地方におけるインバウンド対応は、ボリュームかバリューか(観光客数の増加と客単価の増加、どちらが本当の地域振興になるのか)で言うと、ボリュームが重要。
- ・他地域では、外国人が日本人にとってのオフシーズンを楽しんでいる事例も見られる。インバウンド受け入れによって、東北地方における観光客数の季節間格差解消が期待できる。
- ・国内目線と海外目線は明らかに異なり、被災の捉え方も違う。また、一口に外国人といってもアジア人と欧米人では、資料館に求めるものや滞在時間、選ぶ土産物等が異なり、各対象に応じたコンテンツづくりが重要。

## 2. 復興祈念公園と観光に関する懇談会における主なご意見

### <コンテンツづくり>

- ・「東北ならではのもの」として、東日本大震災の経験、田舎の良さ、ホスピタリティ等のコンテンツがある。
- ・海外では、負の遺産をきちんと観光化し歴史を伝承している。また、震災後、海外では、日本人の秩序ある行動や冷静さが多く取り上げられていた。「克災」(厳しい自然環境、自然災害等の克服)という日本人特有の精神は、復興祈念公園のコンテンツ、インバウンド対応のコンテンツとして重要。
- ・広島平和記念資料館では、外国人観光客から「次回は体験ガイドを利用したい」という声が多く寄せられている。地域の人々による実体験の紹介は、インバウンド対応のコンテンツとして有効。

### <観光要素間の連携・地域活性化>

- ・テーマ性のある観光を活用し、コンテンツの磨きあげ、ストーリーの作成、宿泊施設間の連携、宿泊施設関係者のインバウンド受け入れ意識の向上等に、取り組んでいくことが重要。
- ・アメリカや北海道で成功している、シーニックバイウェイの考え方を東北地方にも適用したい。高速道路が通過する地域の衰退を防ぐ対策が必要。
- ・観光ルート作成の際、観光客の利便性を考慮すると動線を一筆書きとする心がけが必要。
- ・復興祈念公園をきっかけに、観光業の雇用が増加することで、人口減少の食い止めに期待できる。
- ・ホームステイで生活体験や地域の人々との交流を促すことで、地域活性化を期待できる。
- ・公園を中心とした観光ネットワークの展開範囲やそれに必要なホスピタリティの構築方法について、検討が必要。

### <その他>

- ・復興祈念公園として、地域で果たす役割をよく検討することが重要。
- ・公園があるだけで満足してはいけない。地域の人々が公園を利用し、地域の手をつけたり、地域の想いを発信したりできる体制の構築が理想的。